

生きた言葉：

詩的な分析の試み

受胎は、死感動のない言葉は
まるで翼がない飛行機のように
空気力学的な創造力に欠け
慎重に組み立てられただけの怪物

生きた言葉は飛ぶ鳥のように
素早い動きと、ぴんと張った翼で
われわれを新たな高みへと持ち上げる

詩はまだ見ぬ世界への飛躍の手段
靈感を得た言葉は我われに
詩人の心は、地を這うためにあるのでなく

悟： 詩の評論を多く見てきましたが、私の意見では、詩は注釈無しの方が良いです。 詩には注釈など付けられないほうがいいというのが自分の意見です。

ティン： 注釈は、余計な抽象概念を加えることになるわね。そして、しばしば、新鮮さを損なうことにもなるわ。

玲亜： しかし、ほとんどの作家は、その創作過程で内面的に対話を行っていると思うわ。ある詩について述べている詩は、ただ単に創作過程において考えたことがらを、反映させたものでしょう。

ミン： (突然、鼻をクンクンと鳴らして) もう、こんな強烈な匂いを放つ講釈はたくさん！ 時々全部切り刻んでしまいたくなるよ。

- T Newfields

(和訳: Ishiguro O_Oと神谷卓代と吉田典子)

開始: 1995年名古屋 ♪ 完成: 2017年 2015年東京

